

第25回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成25年1月

応募者名: 青森県、青森市

事業の名称: 青森都市計画道路事業

3・2・2号内環状線

実施都市名: 青森市

事業目的

- 1) 東北新幹線新青森駅と東北縦貫自動車道青森ICやフェリー埠頭などの交通拠点をはじめ、三内丸山遺跡や県立美術館といった観光拠点とのアクセスが向上することにより、交流人口の増加による観光や産業・経済の活性化が期待される。
- 2) 鉄道によって分断された青森市の南北市街地が直接結ばれることにより、慢性的な交通渋滞の緩和等、都市交通ネットワークの円滑化が図られる。
- 3) 近隣の市道は踏切での列車待ち、雪による道路幅の減少、狭い歩道、大型車の混入・すれ違い困難などが原因で朝夕は慢性的な交通渋滞が発生しており、内環状線に交通量が転換されることにより、これらの解消につながる。

事業概要

事業名称:青森都市計画道路事業

路線名:3・2・2号内環状線

事業箇所:石江工区および石江2工区

事業延長:L=884m(うち、県施工524m、市施工360m)

幅員:W=27~42m(一般部は30m)

事業費:約104億円(うち、県が約82億円、市が22億円)

事業実施期間:平成16年度~平成23年度

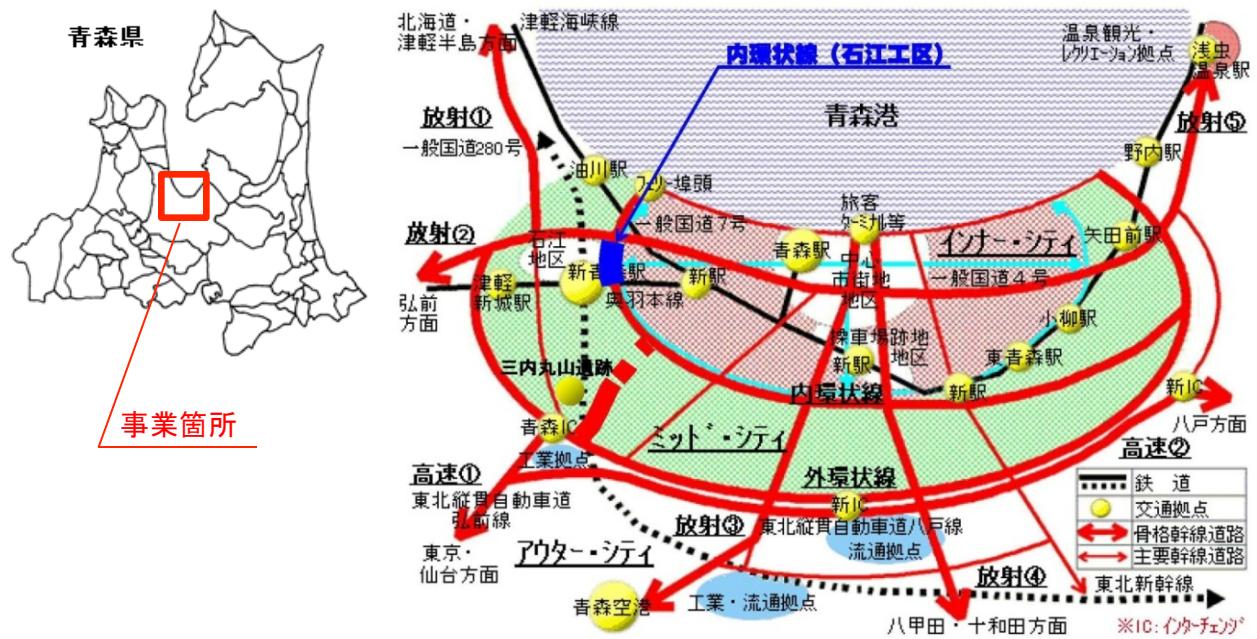
都市計画道路3・2・2号内環状線(以下内環状線という。)は、青森都市計画マスタープランにおいて、2高速2環状5放射道路の一路線に位置づけられた骨格幹線道路であり、流入する交通を市街地内に円滑に誘導分散する主要幹線道路でもある。

今回の整備区間は平成17年5月に開通した三内工区の延伸として、一般県道鶴ヶ坂千刈線交差点からJR奥羽本線と立体交差し、一般国道7号青森西バイパスに至る延長884mの区間で、平成22年12月に開業した東北新幹線新青森駅の周辺区画整理事業と連携し、新青森駅と市街地を連絡する機能も併せ持つ重要な区間である。このうちJR立体交差部を含む南側524m(石江工区)を青森県が、北側360m(石江2工区)を青森市が整備した。

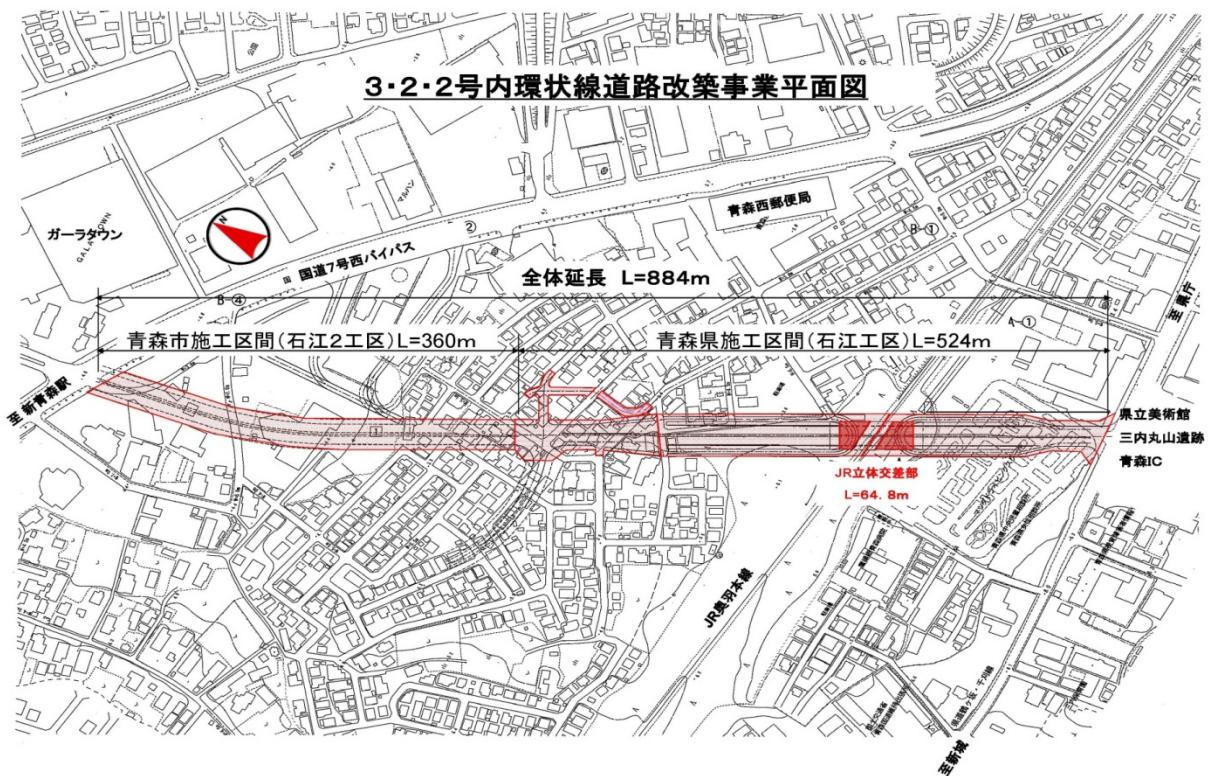
事業位置図

交通体系に関する整備方針図

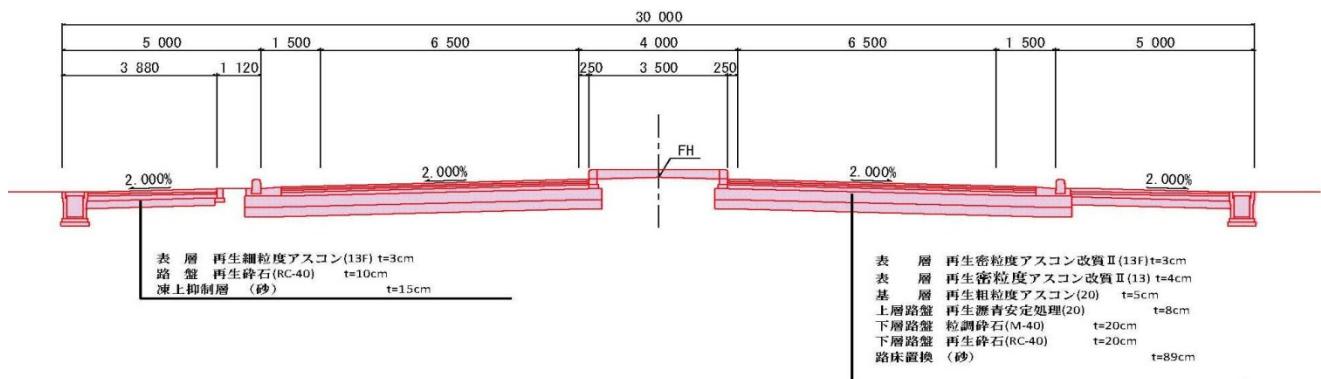
資料提供：青森市



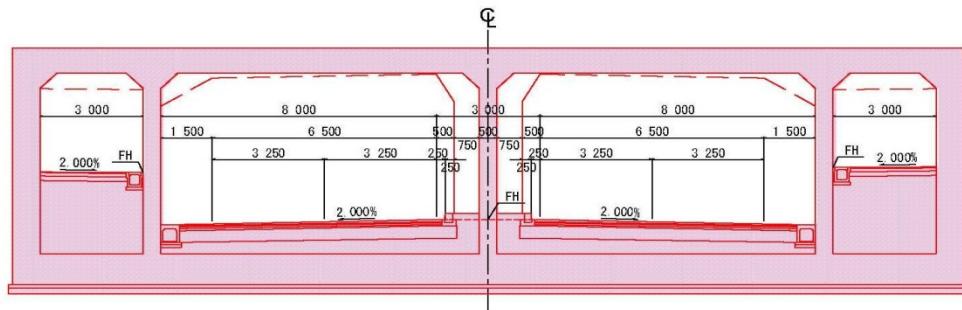
全体図(平面図・側面図・横断図)



標準断面図(一般部)



標準断面図(鉄道交差部)



(完成イメージ)



内環状線の整備効果アピール資料

整備効果①

■交通・観光拠点のアクセス向上による地域活性化

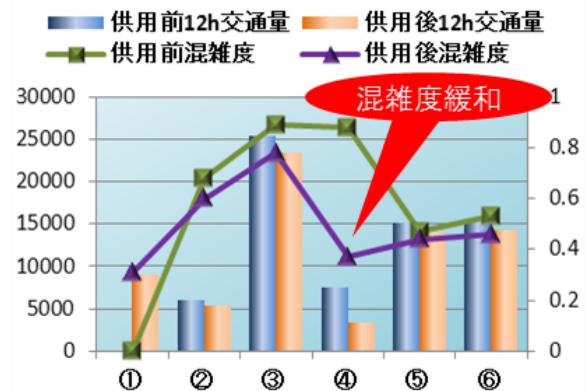
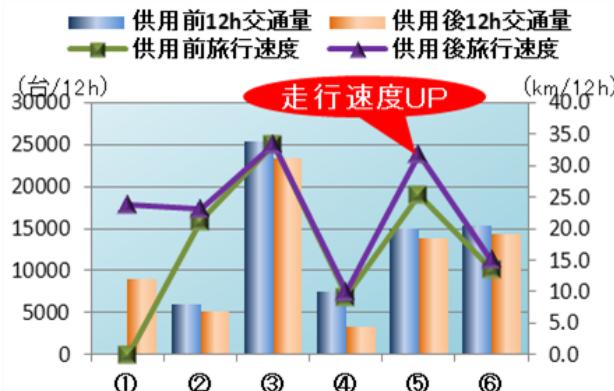
・青森 I C ←→ フェリー埠頭

・新青森駅 ←→ 三内丸山遺跡・県立美術館

10分短縮

整備効果②

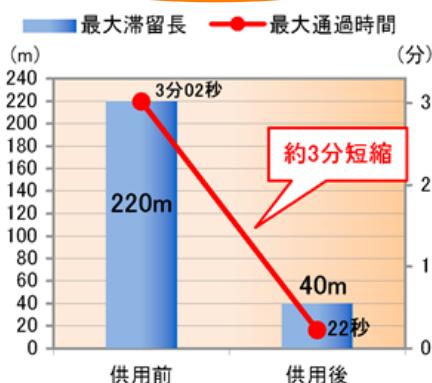
■交差または並行する道路の旅行速度上昇と混雑度低下



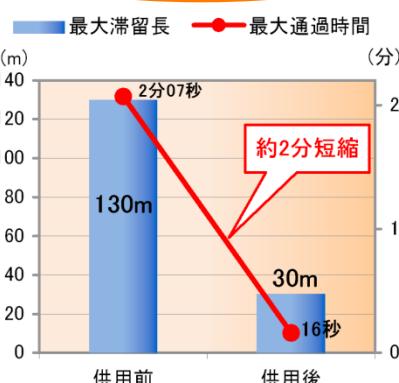
整備効果③

■主要渋滞ポイント 2箇所解消 (通過時間が大幅に改善)

西郵便局交差点



メガ前交差点



事業前写真

(事業着手前)



平成22年5月撮影



平成22年1月撮影



上：立体交差部の施工状況

右：列車通過待ちや積雪による渋滞の状況（市道）



事業後写真

平成23年9月撮影



平成23年11月撮影

